

2018（平成30）年度

学習計画 （シラバス）

第3学年普通科教養系



科目一覧（単位数）

- 現代文 B（3 単位）
- 古典 B（2 単位）
- 政治経済（2 単位）
- 数学Ⅱ（2 単位）
- 化学基礎（3 単位）
- 体育（2 単位）
- コミュニケーション英語Ⅲ（4 単位）
- 家庭総合（2 単位）
- 世界史 B（選択）（4 単位）
- 日本史 B（選択）（4 単位）

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	現代文B	単位数	3 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「現代文B」(数研出版)	副教材	「ビジュアルカラー国語便覧」(大修館) 「パーフェクト常用漢字」(第一学習社)		
教科目標	現代文では、日本語の文章を的確に理解し、また適切に表現する能力を高めるために、近代以降の様々な文章を通じて文章構成と論理的思考方法とを学び、多面的なものの見方、感じ方、考え方を深めていきます。さらに日本語の語彙、慣用表現などの根本にある文化・歴史的背景についても理解を深めていきます。				
授業内容 進め方	「評論」では、論理の展開や要旨を的確に捉える方法を学び、様々な問題について今後の自分の在り方・生き方と絡めながら深く考えていきます。「小説」では、人物や情景、心情などを読み取りながら優れた表現を味わうとともに、さまざまな文章を読むことによって、人間や社会、自然などに対する自分の考えを深め、発展させていきます。また、「国語のチカラ」を通して、課題を継続的に実施し、語彙力や国語常識の定着を図ります。				
授業の留意点	授業においては、文章をじっくりと読み、問題について自分で考え、理解するように努めて下さい。文章を読む際は構成を意識し、キーワードとなる言葉を探しながら、筆者の論点を的確に読み取ることができるよう練習していきましょう。また、いろいろな場面で自分の考えを発表してもらいます。正しい言葉遣いで適切に表現することを心がけてください。適時出される課題についても積極的に取り組んでください。				
学習方法 (アドバイス)	授業では初見の本文に関する問題、グループワークや言語活動に積極的に取り組んでください。多くの文章を読み、キーワード・キーセンテンスを掴んで大意を理解する練習をしましょう。				
課題・補習	プリント等の課題はあります。日常の補習は行いませんが、必要な場合は、個別に対応します。また、長期休業中に成績不振の者に対して補習を行う場合もあります。				
試験について	試験は定期試験4回のほかに国語常識等の確認試験を行う場合もあります。試験全てを総合的に判断して評価します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況			
	②話す・聞く能力	・学習活動(ディベート)への取り組み			
	③書く能力	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況、定期試験			
	④読む能力	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況			
	⑤知識・理解	・定期試験、確認試験、漢字コンクール			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	古典B	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「精選古典」(三省堂)	副教材		「体系古典文法」(数研出版)	
教科目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広 くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を養う				
授業内容 進め方	古文、漢文ともに音読、書写、意味調べをし、作品の文学史的意義や本文の内容を 理解していきます。文法事項についての理解を深めるとともに、内容を的確に捉え、 歴史的知識を深めて、作品を重層的に鑑賞できる素養を涵養します。				
授業の留意点	授業においては、文章をじっくりと読み、問題について自分で考え、理解するように努 めて下さい。自分の考えを発表したり、グループで課題に取り組みますので、しっかり 参加してください。				
学習方法 (アドバイス)	古文・漢文ではノート作りが重要となります。できる限り本文を書写するとともに、音読 も重視し、文章を全身で感じとってください。また、グループワークや言語活動には積 極的に取り組んでください。多くの文章をよみ、大意を理解する練習をしましょう。				
課題・補習	プリント等の課題はあります。日常の補習は行いませんが、必要な場合は、個別に対 応します。また、長期休業中に成績不振の者に対して補習を行う場合もあります。				
試験について	試験は定期試験4回のほかに確認試験を行う場合もあります。試験全てを総合的に 判断して評価します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況			
	②話す・聞く能力	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況、定期試験			
	③書く能力	・本文書写、口語訳、課題・提出物の状況			
	④読む能力	・音読、定期試験			
	⑤知識・理解	・古典文法小テスト、漢文句形小テスト、定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	政治・経済	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「改訂版政治・経済」(数研出版)	副教材		「政治・経済資料2017」(とうほう) 「山川一問一答政治・経済」(山川出版社) 「改訂版記入整理と演習スタディノート」(数研出版)	
教科目標	(1)現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 (2)現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 (3)政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。				
授業内容 進め方	(1)教科書の内容を中心に基本事項を学び、一般教養として実生活に役立つ力を養成します。 (2)授業中に出来るだけ多くの時事問題を取り上げ、具体的な事象として学習します。 (3)単元の区切れの部分で小テストを行い、授業の理解度を確認しながら進めていきます。				
授業の留意点	(1)客観的な資料と関連させて諸課題を考察し、公正かつ客観的な見方や考え方を身につけましょう。 (2)様々な立場の考えを理解し、歴史的に過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 (3)考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を身につけましょう。				
学習方法 (アドバイス)	教科書、資料集とノートを基本として、単語を覚えることはもちろんですが、その事象がなぜ発生したのか、内容をしっかり理解し、説明できる力が必要です。そのために授業をしっかりと聞くこと、わからないことは質問する姿勢を身につけてみましょう。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年間4回の試験を実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	政治、経済のしくみに関心を高めているか。 意欲的に課題を追求する態度や積極的に考察しようとする態度を身につけているか。 国際社会に生きる日本人として社会を主体的に考える態度を身につけているか。 ※学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み、ノート			
	②思考・判断・表現	諸事象から課題を見だし、多面的、多角的に考察しているか。 社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 ※定期試験、小テスト、学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み			
	③技能	諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に関する情報を主体的に選択し活用しているか。 学習の中で、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。 ※定期試験、プリント等への取り組み			
	④知識・理解	政治・経済に関する基本的な事柄を理解し、応用力を身につけることができたか。 ※定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学Ⅱ	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「新編 数学Ⅱ」(数研出版)	副教材	「クリアー数学Ⅱ+B」(数研出版)		
教科目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授業内容 進め方	授業の進め方は、教科書の内容を基本とし、基礎の定着をはかる。その定着具合から判断して、副教材を用いた問題演習を積極的に行い、応用力を身につける。				
授業の留意点	授業では教科書の内容を中心に行うが、その際「定義」、「定理(公式)」を理解するように心がけ、基本的な例題の解法は疑問点がなくなるまでじっくりと考えてもらいたい。疑問点がある場合には、どこから分からなくなったのかを明確にして質問すること。それが自分自身の弱点を克服する鍵となる。				
学習方法 (アドバイス)	数学を勉強するにあたっては問題の演習に時間を割くことが重要である。授業に臨むにあたり、できれば予習をしておくことが望ましいが、それよりも復習に時間を割くことが大切である。授業で行った内容の問題演習を、各自副教材を利用するなどして毎日必ず復習すること。問題演習の中で、基本的な計算問題もミスなくできるよう必ず解くこと。計算力を身につけることが、数学の学力を向上させる最良の手である。				
課題・補習	教科書の補充問題、章末問題、副教材の問題で授業の中で消化しきれなかった問題を課題とする。場合によってはプリント等で課題を補充することもありえる。平常講習、長期休業中の講習では、授業の発展的な内容を扱う。				
試験について	試験は4回の定期試験以外に必要なに応じて単元テストを実施する場合がある。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	各章における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしているか。 ・学習活動への取り組み ・課題や提出物の状況(ノート、プリント、レポート等)			
	②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 ・試験 ・提出レポートの内容 ・提出ノートの内容			
	③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト			
	④知識・理解	各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	化学基礎	単位数	3 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「改訂版 化学基礎」(数研出版)	副教材	「基本セレクト化学基礎」(数研出版)		
教科目標	化学は理科全般を理解する上での基礎科目として位置づけられています。化学の基礎的な概念や原理・法則を理解してもらうことで、これを道具として利用し、物理・生物・地学分野を含めた、自然界に内在する原理・法則を探究し、解明する能力を養う。				
授業内容 進め方	基本的には教科書に沿って行いが、内容によっては理解を深めるために発展的な内容も扱い、身近な物質や現象を化学的に観る能力を養う。また、教科書の練習問題や副教材の問題演習を解き、基礎的な考え方、計算能力を身につけていく。				
授業の留意点	前半は暗記事項、後半は計算事項の内容が多くなる。後の授業内容につながる事項が多いので、苦手な部分は復習に力を入れ、できる限り内容理解に努めること。				
学習方法 (アドバイス)	理論分野で比を用いることが多いので数学の授業とのつながりも大事にしてください。理科はイメージが必要な科目です。文章から求められていることを正確に把握できるよう、読解力も養うようにしてください。				
課題・補習	適宜教科書の練習問題や副教材の問題を課題として指示する。発展的な内容についてはプリントでの課題学習を行う。				
試験について	定期試験を4回行う他、進度に応じて授業の中で確認テストを行う。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	周囲と協力して問題に取り組むことができる。 授業中の質疑応答に積極的に参加することができる。 身の回りの現象に化学的な視点をもって接することが出来る。			
	②思考・判断・表現	実験操作において、与えられた条件から解答を導くことができる。 問題の解説を第三者にわかるように説明できる。			
	③技能	応用問題を学んだ知識を利用して解くことができる。 実験操作を正しく行うことができる。			
	④知識・理解	小テスト等により、基礎知識を理解している。 基礎基本となる法則、原理を正しく用いている。			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	体育	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材		指定ジャージ、指定靴 指定Tシャツ	
教科目標	運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。				
授業内容 進め方	各種運動を実施しながら学んでいく。				
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること				
学習方法 (アドバイス)	日頃から心身の健康や体力に関心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	服装・身だしなみ・協調性等			
	②思考・判断・表現	毎時間の取り組みを観察する			
	③技能	種目毎の実技試験による評価			
	④知識・理解	授業内での観察や筆記テスト等			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	Compass English CommunicationⅢ	副教材	スクランブル 英文法・語法 Basic ユメタン Level 1		
教科目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考え方などを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を伸ばし、社会生活において活用できるようにする。 CAN-DO-LISTに基づく具体的な言語活動は以下の通り。 (1) 日常生活での出来事について、用件を伝えたりすることができる。 (2) 日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 (3) 日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 (4) まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。				
授業内容 進め方	・教科書、プリントを使いながら事物の紹介や報告、対話や討論などを読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 ・文章を速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。 ・聞いたり読んだりしたことや学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。 以上の項目をととして4技能を統合的に育成する。				
授業の留意点	・言語活動に積極的に参加して学習すること。 ・音声的な特徴(アクセント・イントネーション)や日本語との違いに注意しながら発音すること。 ・まとまりのある文章を音読・暗唱することをととして英語の文章の流れに慣れること。 ・自分の意見を持つこと、自分自身の経験に基づいて文章を書くこと。 ・違いを認め合う姿勢で他者を尊重すること。				
学習方法 (アドバイス)	・授業中の言語活動に積極的に参加すること。 ・自分の意見を持つこと。 ・反復練習を怠らないこと。 ・学習ノートや教科書・プリントの復習に努めること。 ・音読練習をすること。				
課題・補習	家庭学習用単語練習ワークシート、スクランブル練習ワークシートを課題として適宜提出する。 長期休業課題、週末課題を課す。スクランブル、ユメタンで適宜小テストを実施する。				
試験について	定期試験を年4回実施する。 ※定期試験とは別にパフォーマンステスト(実技テスト)を実施する。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・コミュニケーション活動に関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいるか。 ・自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいるか。 ・自己の技能向上のために取り組んでいるか。 (各活動への参加の様子の観察、ワークシート、授業の感想シート、課題提出状況)			
	②外国語表現の能力	日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、得られた情報の概要や自分の考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できているか。 (定期試験、ワークシート、スピーキングテスト、プレゼンテーション)			
	③外国語理解の技能	日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、英語を読んだり聞いたりして、情報や意見など相手が伝えたいことを理解しているか。 (定期試験、ワークシート、リスニングテスト)			
	④言語や文化についての 知識・理解	日常的な話題やまとまりのある文章の英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。 (定期試験、小テスト、ワークシート、ワークブック)			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	家庭総合	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 普通科
教科書	東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造	副教材		実教出版 生活Navi資料＋成分表2017	
教科目標	人の一生と家族、衣食住、消費生活など家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、その充実に資する能力と実践的な態度を育てる。				
授業内容 進め方	・人の一生と家族、子どもの発達と保育、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を学びます。 ・ワークシートやプリントを利用し、調査・研究・観察や実習を多く取り入れ学習します。 ・学習を通して、自分自身や現在の生活を深く見つめ、自立を目指し将来を考えることが出来るように学習を進めます。 ・グループや個別学習など、多様な学習形態を取り入れ、生活や学習の中から見つけた課題の解決方法を考え、実践していきます。				
授業の留意点	・学習したことを、家庭科の各分野や他教科での学習と関連づけて考えるようにしましょう。 ・自らの経験や体験、先生や他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。 ・ワークシートには、授業の中で大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどし、自分なりに工夫や整理をすることが大切です。 ・プリント、感想、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。				
学習方法 (アドバイス)	家庭総合を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみではなく、学習した内容を日常生活にいかすことです。誰もが家庭生活に一生関わっていきます。学校での学習をぜひ家庭生活でも実践して、将来にいかせるようにしてください。				
課題・補習					
試験について	定期試験は、前期中間、前期期末、後期中間、学年末(計4回)の実施予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に学習し、生活を向上しようとする実践的な態度が身についたか。 ※授業・実習の参加の仕方・態度、プリント・ワークシートへの取り組み			
	②思考・判断・表現	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、課題を解決するために考え、工夫する力が身についたか。また、自分の意見や考え、感想などを文章で表現する力や発表する力が身についたか。 ※定期考査、プリント・ワークシートの考察			
	③技能	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などについて、将来の自立のために必要な基礎的・技術が身についたか。 ※実習時の技術・評価、プリント・ワークシートの考察、作品・レポートなどの提出物			
	④知識・理解	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などについて、基礎的・基本的な知識が身についたか。 ※定期考査、プリント・ワークシートの考察			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	世界史B	単位数	4 単位	学年・学科	3 年 普通科教養系
教科書	「高校世界史B」 (山川出版社)	副教材	「最新世界史図説タペストリー」(帝国書院) 「世界史B用語問題集」(山川出版社)		
教科目標	(1)古代から近代に至るまでの世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解すること。 (2)人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培うこと。 (3)国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うこと。 (4)世界の歴史を地理的空間の広がりの中でとらえること。				
授業内容 進め方	(1)2年次の授業内容を踏まえて主に西洋史を復習し、センター試験に対応できる学力を養成します。 (2)授業中に出来るだけ多くの史料をもちいて学習します。 (3)単元の区切れの部分で小テストを行い授業の理解度を確認しながら進めていきます。 (4)テーマごとのまとめと演習を中心にを行いより実践的な学習をします。				
授業の留意点	(1)様々な立場の考えを理解し、歴史的に過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 (2)史料を調べて、年表や図表などに適切に表現する能力を身に付けましょう。 (3)基本的な事項を確実に身に付け、地理的空間の広がりや時間との関係でとらえることのできる応用力を身に付けましょう。				
学習方法 (アドバイス)	教科書、資料集とノートを基本として、単語を覚えることはもちろんですが、その事象がなぜ発生したのか、内容をしっかり理解し、説明できる力が必要です。そのために授業をしっかりと聞くこと、わからないことは質問する姿勢を身につけてみましょう。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年間4回の試験を実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	世界の歴史に関心を高めているか。 意欲的に課題を追求する態度や積極的に考察しようとする態度を身につけているか。 国際社会に生きる日本人として歴史を主体的に考える態度を身に付けているか。 ※学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み、ノート			
	②思考・判断・表現	諸事象から課題を見だし、多面的、多角的に考察しているか。 社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 ※定期試験、小テスト、学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み			
	③技能	諸資料を収集し、学習に関する情報を主体的に選択し活用しているか。 学習の中で、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。 地理的空間の広がりを時間との関係でとらえることができるか。 ※定期試験、プリント等への取り組み			
	④知識・理解	世界史に関する基本的な事項を理解し、応用力を身につけることができたか。 ※定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	日本史B	単位数	4 単位	学年・学科	3 年	普通科教養系
教科書	高校日本史(山川出版社)	副教材	「図説日本史通覧」(帝国書院) 「日本史B一問一答」(山川出版社)			
教科目標	1 古代から近現代にいたる我が国の歴史を史料をもとに理解する。 2 人類の課題を多角的に考察することによって歴史的思考力を養う。 3 国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 4 日本の歴史を地理的空間の広がりの中でとらえること。					
授業内容 進め方	1 教科書を中心に古代から近現代までの日本の基本的な歴史的事項を一斉講義で学びます。 2 授業中にできるだけ多くの史料を用いて学習します。					
授業の留意点	1 日本の歴史について、「なぜそうなったのだろうか?」という疑問を大切にしながら学びましょう。 2 様々な立場を理解し、歴史的過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 3 史料を調べて客観的事実を探究する力や、年表や図表などにまとめる表現力を身につけましょう。 4 基本的な「知識・理解」は、自分の言葉でその背景などを説明できるようにし、確実に身につけましょう。					
学習方法 (アドバイス)	・事前に教科書を読むなど予習を行うと、授業での理解や達成度が高まります。 ・新聞やニュースを見聞きすることで、歴史に関する興味や関心が高まりますので、積極的に現在起こっている諸問題に関心を持ちましょう。					
課題・補習	必要に応じて実施します。					
試験について	年間4回実施します。					
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法				
	①関心・意欲・態度	・日本の歴史に関心を高めているか。 ・意欲的に課題を追求し、客観的に考察しようとする態度を身につけているか。 ・国際社会に生きる日本人として歴史を主体的に考える態度を身につけているか。				
	②思考・判断・表現	・日本の歴史を通して現代日本の課題を見いだしているか。 また、現代世界や人類の課題について多面的に考えることができるか。				
	③技能	・史料を収集し、その情報を主体的に選択、活用しているか。 ・学習の中で、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。				
	④知識・理解	・日本の歴史に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。				
備考						